

## <宣誓・声明書>

### —2024&2025 法人第9・10期 理事長候補者選挙立候補にあたり— これからの一般社団法人日本実験動物技術者協会(実技協)の運営

2024年4月30日作成 帝京科学大学生命環境学部 中野洋子

#### はじめに

私が初めて理事長候補者選挙への立候補のご推薦を受けて立候補させていただきましたから、早くも2年が過ぎました。この度、再度評議員の方々のご推薦をいただき、次の2期に向けて引きつづき理事長候補者選挙に立候補させていただく所存です。この場をお借りして今後の2期に向けての私の考えを述べさせていただきます、改めてご支援を賜りたく存じます。

実技協ではこの2年間に一般社団法人の組織としての課題に向き合い、少しずつ運営の改善を進めてきております。2年前に私が会員みなさまにお約束をした以下の2本柱を軸にしながら本部の部局や支部との連携を進めるとともに、関係学協会とも協力を進めることで、少しずつ具体的な取り組みも成果として挙がってきております。

- I. **会員の声、支部の声を聴く機会を時々設けて話を伺い、組織運営として対処すべきこと、会員個々・各支部が参加の実感を得られるような取りくみたいこと・取り組むべきこと、を計画し実行すること**
  1. 協会としての活動運営の見直し
  2. 協会の財政の適正化
  3. 協会を担う人材の育成
- II. **実験動物技術者が社会において果たすべき役割を改めて認識し、魅力ある協会活動を通じてその責任を果たすことで、社会的な存在意義を認めてもらうこと**

この先の2期(法人9期ならびに10期)においても、引きつづき上記の2本柱を軸とした活動を展開していきたいと考えております。

#### 法人7期から現在までの振り返り

法人8期の活動については、昨秋の総会でご承認を賜り、現在進行中の状況ですが、ここまでの運営について少し振り返っておきたいと思っております。

昨期より“Webの活用”を積極的にすすめ、実技協の様々な企画や会議のツールとすることで、会員みなさんが協会企画等への参加が容易になったり、交通費などの負担が軽くなったりと、良い意味で企画参加機会の提供の頻度も増やすことができたと思っておりますが、いかがでしょうか？加えて、実技協の本部・支部運営を行う上でも、会議の開催頻度を増やすとともに理事の交通費を削減できるなど、実質的な財政への効果も少ないながらも上げることが出来ました。

また理事長に就任するにあたり、実技協の実質的な運営を円滑にすすめるために本部部局運営規程も大幅に見直させて頂きました(法人第7期社員総会 総会議事資料参照)。中でも本部の部局に関わる役員として30~40代の方々に多く参画いただき、実質的な活動を行える体制を整えました。その結果、下記のような事項についての取り組みが進んできていることを、会員のみなさんにも感じていただけているのではないのでしょうか。

- 法人第6期より継続した活動により、機関誌ならびに広報の電子化への移行
- Zoomシステムの導入とそれに伴う会議、講演会、講習会等のWeb開催
- 実技協HPの大幅更新
- 規定類の改訂、新たな整備
- 実技協全体としての財務基盤の見える化の推進

この様に新たな取り組みに着手できるようになってきたのも、増員した本部部局員の方々の献身的なご協力が大きな原動力であったと思います。今期は、本部体制を更に強固なものにしていくとともに、支部への支援にまで手が伸ばせるよう、本部—支部連携の強化を進めます。活動を支える人材の育成も進めながら、会員のみなさんのご要望に応じていけるような企画の提供や共に活動できるようなイベントの開催を進めていきたいと考えています。

### これから予定している取り組みについて

法人第9期ならびに10期については、昨年4月に行った会員アンケートの結果(広報第47-1号に掲載)も参考として展開をしていきたいと思っております。会員アンケートは、昨年4月末時点で会員の約半数の方々から回答をいただきました。

その時点で実技協に所属されていた会員は、約6割が企業に所属されており、約4割が大学・公的研究機関に所属されているという結果であり、以前に協会が把握していた会員構成比(現HPに掲載されている結果)とほぼ一致するものでした。一方、企業に所属されている方の内訳は、受託研究関連企業が製薬企業を上回る結果となり、以前の調査の1位、2位が入れ替わるという変化がみられております。この10年間で飼育管理の現場では業種に関わらず業務委託化の流れが大きく進み、施設直属の正社員・正職員の方々が減少している状況は、会員から直接伺うお話からも認識されているところです。このことは、現場におけるアニマルウェルフェアへの課題や改善提案が施設運営に反映されにくい状況を生むとともに、各施設で培われてきた技術継承が危ぶまれる状況ではないかと懸念しております。一方で、今回のアンケート結果から、会員のみなさんが業務(特に現場に直結する)に関連する新しい情報を積極的に入手し、業務改善に生かしていきたいという前向きなご要望が多く出されており、実技協としては、これらのご要望にお答えできるような活動を進めていきたいと準備を進めております。その上で、法人第9期からは下記の取り組みを進めていきます。

#### **1-1. 協会としての活動運営の見直しを進めるために**

- ① 新たな協会HPの運用やメールマガジン発行の在り方の検討と活用
- ② 講習会、講演会、その他企画等の提供ツールとしてのオンラインの積極活用

- ③ 実技協の事業運営における電子化対応(総会開催等への応用の可能性の調査)
- ④ アニマルウェルフェアに配慮した講習会開催の推進に向けての動物実験委員会の設立
- ⑤ 本部—支部協力体制の強化・継続と活動実践
- ⑥ 実技協全国大会開催方法の最適化に向けた議論の開始
- ⑦ 一般社団法人の活動運営全般に関わる不整合の修正と適正化

#### I-2. 協会の財政の適正化を進めるために

- ① 各支部の活動を妨げないような全体最適な財政の在り方の検討
- ② 各支部の人材、資材等の有機的な活用
- ③ 会議・企画等の開催への Web 会議システムの活用による支出削減
- ④ 収入を見込んだ Web 会議システムを活用した有料企画イベントの開催
- ⑤ 実技協が持つ技術知の実技教育等への活用ならびにそれに関する物販の検討
- ⑥ インボイス制度対応のための会計システムの活用や体制作りに向けた調査・検討

また、今後新たに解決しなければならない課題として、上記に⑥が加わりました。現在、財務部がこの件についての対応を進めて下さっていますが、協会全体としての体制づくりには、支部役員のみなさんとの連携も重要となってきております。この件については、待ったなしの状況でありますので、財務部へのご協力を協会一丸となってお願いしたいと思っております。

#### I-3. 協会を担う人材の育成を進めるために

昨期より活動目的に掲げさせていただいた“人材の育成”については、新たに新設した人材育成・教育研修部が基盤づくりを開始し、新たな企画を提案・実施できるところまでに育ってきました。今後の協会活動を考える上で、この部が担う役割は単発で行うようなものではなく、継続して取り組んでいくべきものであると考え、3月22日に開催された法人第8期第2回理事会において、正式に実技協の常設部として位置づけていくことを提案させていただきました。その結果、理事のみなさまからご承認をいただくことができました。下記の①を進めるにあたり、定款の改訂も予定しております。10月の総会には、これらについて会員のみなさんにご提示し、ご承認をいただけるようにご説明を行う予定です。

- ① 人材育成・教育研修部の常設部への格上げ
- ② 人材育成・教育研修部を主体する実験動物技術者のキャリア形成を見据えた研修や教育ならびに実技協役員に向けた協会活動へのサポート教育体制の検討
- ③ 会員が参加し易い費用・方法による育成企画の検討

#### II. 実験動物技術者が社会において果たすべき役割を改めて認識し、魅力ある協会活動を通じてその責任を果たすことで、社会的な存在意義を認めもらうために

- ① 実験動物の適正使用と管理に対する啓発活動ならびに実験動物技術者の専門性や必要性の周知活動
  - ・サイエンスアゴラ等への企画参加の活用
  - ・関連団体との交流と情報発信

今期は、実験動物業界としてもとてもチャレンジングな取り組みとなった、国立研究開発法人科学振興機構(JST)主催 サイエンスアゴラ 2023 へのブース出展を成功させることができました。広報第 47-1 号への投稿記事にて、当日の様子についてご報告させていただきました。更に 3 月 11 日に開催された人材育成・教育研修部主催のオンライン勉強会\_\_第 1 回『実験動物技術者の思い、どう伝える? ~サイエンスアゴラ出展を事例に~』においては、出展ブースにボランティア参加くださった方々から、その時の様子を参加者に直にお伝えすることもできました。当日の勉強会には、主催された JST のスタッフの方々、環境省動物愛護管理室の方、実験動物医学専門医協会(JCLAM)の方々、ボランティアメンバーの上司の方などもオブザーバー参加され、今回のサイエンスアゴラへのブース出展参加が、実験動物関係者たちにとっても大きな一歩となることのご評価をいただくとともに、今後の継続参加への期待の言葉もいただきました。私たち実験動物技術者自身が、長年悩み、なかなか自身の仕事に誇りを持ってずにいたことが、サイエンスアゴラへの参加で、一歩ずつ変わっていきける手ごたえも感じられたところです。これを契機に、実験動物技術者自身が自分たちの仕事をもっと広く、深く理解し、それを伝えるスキルを身につけて、自分たちの手で自分たちの存在意義を語れるようになっていけるよう、サイエンスアゴラへの継続参加を進めたいと考えています。会員のみなさんも私ごととして共に一歩を進め、自分たちのことを知っていただく取り組みが展開できれば、実験動物業界自体を一般の方々に正しく知っていただけるようになるものと思っています。

その他関連団体との連携ということで、JCLAM さんとはセミナーへの協力を行うなど連携を深めております。また、今年の北九州大会では、日本実験動物学会さん、JCLAM さん、日本実験動物協会さん等々、共催企画も多く実現します。関連団体等との交流を進める中で、実験動物のためのみならず、関わるヒトにとっても働きやすい環境につなげていけるような活動を実現していきたいと考えています。

近々動物愛護管理法の改正が迫っていることは、みなさんをご存知のことかと思えます。動物実験の精度や正確性、データの再現性を支えるためには、3Rs の遵守のみならず、5Freedoms への取り組みは欠かせないものです。現場を護る私たちが、自分たちのことを語れるようになっていくことで、実験動物たちの置かれている環境などへの課題や改善提案に対しても声を上げていけるようになるものと思っています。法改正に対しても、ただ大きな流れを傍観するだけでなく、現場からの要望が挙げられるように、実験動物技術者自身の力を蓄えていく取り組みを今後も継続していきたいと考えています。

以上、理事長候補者として立候補させていただくにあたり、次の 2 期において私が実践していきたいことをみなさんにお伝えさせていただきました。これからも、実技協のために、みなさんと共に一歩を進めていきたいと思えます。どうぞ、ご支援のほどよろしく願いいたします。